

令和2年度第1回大分県総合教育会議 議事要旨

【日程】

日時 令和2年6月1日（月）

開会10時30分 閉会11時35分

場所 県庁本館4階 第一応接室

【出席者】

総合教育会議構成員 大分県知事 広瀬勝貞
大分県教育長 工藤利明
大分県教育委員 林浩昭
大分県教育委員 岩崎哲朗
大分県教育委員 松田順子
大分県教育委員 高橋幹雄
大分県教育委員 鈴木恵

【協議事項】

- (1) 新型コロナウイルス感染対策に伴う学業遅延等への対応について
- (2) ICTなどの先端技術を活用した教育の展開について

【議事要旨】

(1) 新型コロナウイルス感染対策に伴う学業遅延等への対応について

○中村教育改革・企画課長 (資料に沿って説明)

○工藤教育長 各市町村ごと、各学校ごと、それぞれ地域の実情等で学業が同じレベルで進んで

いるという状況ではありません。それぞれの状況を見ながら、夏休みをうまく使うことが、まず第一段階での整理だろうと考えています。特に我々が心配しているのは最終学年、高3、中3、小6、次のステップに移る子どもたち。この学年は期限付の状況ですから、どれだけ上手く対応してあげられるか、学校現場の方も懸命に対応しているところです。

国でも、この限られた期間の中でできることとして、1つは夏休みと土日の活用、それから学年ごとに全部年度内に押し込めようとするのではなく、5年生6年生で通して考えて、6年生の時に調整するような形もあると整理されています。

また、文科省では、全体として時間数が足りるかもしれないし、例えば、今の北九州の状況を見ると、さらに遅れるという可能性もあるので、学習指導要領上、年間のトータルの中で濃淡をつけてもいいという整理をこれからしようとしています。できる努力はした上で、ある部分ができないという時は、やむを得ないという判断をする場合があるということも加えていこうとしています。

特に高3については、資格試験、大学入試という大きな課題が控えていますので、国が検討を進めているところです。大学入試は1ヶ月程遅らせるのではないかとされていますし、そういったことには世の中全体で対応していきながら、加えて地域でやれることは我々も現場と一緒に考えていきます。

特別支援学校はいろいろな事情があり別になりますけれども、今日から県内の小中高が、揃って学校に出てこられる状態がやっと作ることができました。児童生徒等から教職員、協

力して一緒に頑張りたいと思っています。

○広瀬知事 濃淡を付けるなど、文科省の方で色々なことを考えてもらっているのはいいが、結局子どもにとって大事なのは出題範囲ではないか。入学試験に出るのか出ないのか。今回は試験の範囲を狭めてくれという議論があり得る。そういう所を含めて議論するのではないか。

○工藤教育長 そこは大いに議論しないと。そして、早くメッセージを出さないと混乱が深まります。

○広瀬知事 大分県としては早々と再開したから、大学入試の範囲が狭くならない方が有利になるかもしれないが。

○工藤教育長 そこはそれなりに考えて、県が行う高校入試においても配慮して対応していきたいと思います。

○広瀬知事 その辺りを現場の先生方が十分に理解をして、教育に活かしてもらいたい。

○工藤教育長 通常の授業だけをやるという訳にもいきません。色々な行事にも教育効果があるので、それらもある程度実施しながら、学校それぞれの状況の中で最適はどうあるべきかということ絶えず考えながらやるしかないと思います。

○松田委員 大学入試については、部活動の活躍について加点するといった、面接時のプラス部分をどうするのが問題になります。10月過ぎから入試が始まる学校もあるが、スポーツとパソコン何級といった資格で点数をプラスするところが多いです。スポーツについては大会が中止になっているので、2年生までの成績で考えることになるが、3年で顕著に伸びる人がいるので、そういった記録に残らない点については、今の進路指導の先生と大学関係者で話をして、高校の先生がこの人はここまで伸びる可能性があるとか、予想点数を入れていただいたものでOKしようというような話もでてきているようです。

諸外国の様に、入学を簡単にして、卒業を難しくするという方法もある。ある程度入学の門戸を広くして、大学でしっかり専門的に学んだ人を卒業させるという方法をとってやると、いろんな人が入り易いのではないかという議論も出ております。

それから今の大学の授業では、学生一人ひとりがタブレットやノートパソコンを持ち込んでおり、ノートを取ったりしませんし、先生もパワーポイントを使ったりしますし、ICTを使うことに非常に慣れているんです。ただ、私もやり始めて2週間経ったんですけども、双方向でやっているのと、これまでの授業と違い非常にいっぱい疑問が入ってきて、一人ひとりにきめ細かく対応していかなくちゃいけなくなり、もう夜中まで掛かってすごく大変です。90分の講義を30分短縮し、あとはアクティブラーニングを取り入れて、それぞれ自分の学びについて疑問に思ったことを質問し、教師がそれに対応するという方向で、先生方が非常に疲弊しています。ただ、教員の免許を取る人とか保育士を目指す人とかは、人間関係という部分で、学校で対面で行う授業は非常に大事になりますので、ここはICTでできるのか、この科目はやっぱり出てきて、土日でも対面でやらなくちゃいけないというふうに科目別に分けて授業を進めているところです。

○高橋委員 中学や高校では、特別推薦枠の試験がもう始まるんですけども、部活動を一番に頑張ってきた生徒が結果を出せる全ての大会が中止になって、そういった生徒たちの評価をどこでするのか、多分先生方も苦慮されていると思います。そういったことも含め、今度就職する人にも関わってくるが、経済界と連携して就職活動を変えていかないとはいけません。今の就職活動は厳しい状態になっていますので、就活はもちろん、進学の評価をどこでするかという点で、先生方が判断する特別推薦枠といったものも考えていかないとと思います。

県大会はするのかもしれませんが、甲子園野球が全部中止になり、他の競技も全て中止になっていますので、部活の評価をもっと充実させていただきたいと思います。今まで一生懸

命目標を持ってやってきたのに、やる気を失っている子も沢山いると聞いていますので、そういう所も加味していただきたいと思います。

○**広瀬知事** 高校野球は県内で何かやろうと検討しているんですか。

○**工藤教育長** 甲子園大会は中止となりました。無観客でやったとしても全国から選手が集まり、かなりの期間、ホテルとか旅館で滞在することになるため、そういった判断に至りました。県大会については、そういった問題はないので、もちろん状況が許せばという条件付きになりますが、できれば県大会まではできないかと、今、県の高野連で検討しています。高校総体についても、実はこのくらいの時期から県内でも予選が始まる頃なんですけど、学校が再開したから即できますという状況ではありません。皆が一堂に会するというやり方ではなく、それぞれの競技団体でうまく分散して行う日程を作り上げてやっていただこうとしています。それを先程高橋委員がおっしゃったような評価に繋げてもらえるようにしたいと思います。なんとか県大会まではやりたいと思っています。

○**広瀬知事** 高校野球の県大会をするとすると、彼らの将来にとって大事なスカウトは来るんですか。

○**工藤教育長** 県大会をやるということになれば、当然、注目選手を見に来ると思います。

○**松田委員** 例えば陸上は、記録で順番が分かるのでやりやすいらしいです。だから、種目によっては、それぞれ別にやっても優劣がわかります。

○**林委員** 少し違う視点なんですけど、このコロナウイルスの感染拡大というのは、今まで経験したことのない試練を学校現場に与えています。その試練に耐えられるような人、今まで体験したことがないことにも対応できるような人であるかどうかを教員の採用基準に加えて、今10年くらいになります。

今回、先生たちは非常によく対応してくれていて、前回議論した働き方改革をいわば「う

っちゃって」やられているんじゃないかと思います。非常に困難な問題に対応している中、子どもたちの学びをいかに遅れさせないようにするかということも、真剣に考えてくれています。だからこの学業の遅れをどう取り戻していくかということに対して、多分、私たちがここで議論している以上の新しいアイデアを先生たちは出してくれるんじゃないかと非常に期待しています。

○広瀬知事 一斉休校があつて、その後学校が始まり、三密を避けたり、授業が重ならないようにとか色々計算してくれて、そしたらまた休校になったりと、現場の先生は大変だったと思いますが、不満も出ず一生懸命やってくれました。

○林委員 今回、誰も対応したことの無いことですから、新しい考え方を作っていくという段階で、そういう意味でも大変でしたが、やりがいがあったと思います。

○松田委員 教師の大変さでもう一つ。大学の例ですが、入学式の後、オリエンテーションも無いまますぐに課題を出すことになったのですが、高校までに聞いたことの無い教職概論や教育原理といった、科目について課題を出すわけで、非常に苦情が多かったです。課題を出す前にレポートを書けるような授業の発信をしなければなりません。1週間でも1回でも授業をしたことのある課題なら大方こういう内容だろうと考えなくてはならず、その点で先生方が非常に苦労しました。

○広瀬知事 それから夏休みの間に大部分を取り戻そうということになるんでしょうけども、窓を開けばなしにすると暑さも一緒に入ってきますね。これまでと違う対策をするための環境整備は大変になってくると思うんですが、それについての準備は色々やっているんですか。

○工藤教育長 冷房を効かせながら窓を開けるという状況になると思います。コストは掛かりますが、そうせざるを得ません。新しい生活様式の中で、学校現場で一番厳しいのは、三密の

うちの密閉で、ここをどうカバーするかとなると、開放したままで利用するということがありません。そこは、各学校でも相当徹底するようにし、コストアップにはなりませんけども、学びの環境、ハード面は整えてあげたいと思います。今度の補正予算でも色々と配慮いただいたので、その辺もできるだけ前倒しで整備を進めていきたいと思っています。

○松田委員 実際に授業をしました。暑かったので冷房を入れたんですけども、日本の学校の窓の作り方に問題があります。東向きだったら、朝、直射日光が入るので全部カーテンを閉めます。窓を開けて冷房を効かせるんですけども、何の効果もありません。南側に窓があれば、午後南側のカーテンを閉めることになります。

ドイツとオランダに行った時に学校の校舎を見たら、窓が校倉造りみたいに角度を変えた造りになっており、直射日光は入らずに、光はふんだんに入り、風もふんだんに入るようになっています。向こうの学校では夕方5時までは部屋の中で人工的な明かりはつけません。そういった自然の光、自然の風をふんだんに取り入れて授業をやるというのを見て、一方で日本の学校の建物、或いはこういう役所の建物もそうなんですけど、どちらかが全面壁になっており、窓の造りは開閉式。これではカーテンを閉めなきゃいけません。夏に授業をやるというのは、今の建物では非常に難しいかなというふうに思っています。

○岩崎委員 授業の遅れをどうやって取り戻すかについては、我々、県教委として非常に大きな問題だと思っています。

県内で休業の期間が一番長い所は、35日ぐらいということを先程報告いただきました。そうすると、夏休みや土曜日を使って取り戻さないといけないので、追いつくための新しい工夫が必要です。県教委と市教委で連携し、家庭学習と連動した指導などに一生懸命取り組んでおり、具体的にこうしたら追いつけるのではないかとといったモデル案を示してやっていきます。幸い大分県の場合は、早めに授業再開ができたので、他の県よりは、新しい方向性

を出し、取り戻していけないのではないかと考えています。

もう1点、授業の中でも非常に厳しいと思っているのが音楽です。特に集団でやる合唱とかは、飛沫感染の可能性があって非常に難しいです。それと運動です。大きな声を出したり、激しい動きをする訳で、その授業のあり方については、我々が気をつけて指導していかなければと思っています。

○広瀬知事 今、音楽はどういうふうに行っているんですか。

○松田委員 うちの音楽の授業では、合唱等は後期に持っていきます。今は理論や、一人ひとりの持っている能力を引き出していくという、個に対応した授業をしています。

○鈴木委員 今回のコロナで子どもが4人とも休校になり、お昼ご飯の準備が本当に大変で、給食がどんなに有り難かったか分かりました。また子どもたちに課題が出ているので、仕事をしながら子どもの宿題も見て、でもコロナに対する不安感っていうのがやっぱり大人の中でも漂っていて、暗闇に向かっている感じがして、家庭の中もなんとなくどんより暗かったです。

学校が再開して、給食や今まで当たり前を受けていた授業の有り難みが、子どもたちも保護者もよく分かったと思います。学校があったことで、こんなに子どもたちにも保護者にも、本当にいろいろなものを与えてくれたんだなっていうことが分かりました。

○広瀬知事 お母さんの食事の方がおいしいとは言わないんですか。

○鈴木委員 本当にもう、3食食べさせないといけないので大変です。給食が低価格で栄養バランスを考えて、献立が被らないようにしてくれていることが本当に有り難いです。今回は本当に食費が掛かりました。子どもたちが家にいることで、それぞれが通信したり、寒い時期はエアコンを使ったりしていたので、電気代も掛かりました。

学校って当たり前にあるものだと思っていたところが、当たり前じゃなかったんだなって

感じた中で学校に通える喜びとか、学びに向かう気持ちを、今、子どもたち自身も持っているし、保護者も学ばせてあげられる環境ができたという、安心感みたいなものがあります。コロナの中では、皆さんネガティブな発言とか想いが多くなりますが、その中でも、小さな日常の幸せについて、今回よく分かったような気がします。それを大事にしないと第2波、3波が来たときに、その有り難みを忘れ、対応できないといった事態になります。子どもたちはマスクすること、手洗いすること、密を避けることを学校でしっかり教えてもらって、子どもたち自身で非常に気をつけています。先生方も頑張ってください、「子どもがいてはじめて学校」、「子どもたちがいない学校に来て全然楽しくない」、「子どもがいてこそこの学校だ」と、いろんな先生方におっしゃっていただいたので、それは双方にとって、とても良かったんじゃないかと思います。

○広瀬知事 ありがとうございます。そういうことで、これからこの遅れ対策をどうするのか、いろいろ議論があると思います。よく国の方針等も見ながら、現場に対応していただきたいと思います。よろしくお願いします。

(2) ICTなどの先端技術を活用した教育の展開について

○三浦高校教育課長 (資料に沿って説明)

○広瀬知事 先生方の評判はどうですか。

○高校教育課長 最初はなかなか教材作りが上手くいかない教員もいましたが、状況に迫られて、こういった動きがどんどん広がっている状況です。

○松田委員 普通は教員同士なかなか他の人の授業を見ることはないんですけども、今回他の先生の授業を見ることができて、すごく勉強になったという意見もあります。

○高校教育課長 生徒の感想も参考にしながら、次の授業を組み立てられるというところもメリットです。

○**岩崎委員** 先生方の能力、それから生徒たちの受ける能力にずいぶん差があるのではと考えています。先生方の中でも、今の環境にまだ慣れていない方がいるので、研修や指導を徹底しないと、機器をいくら整えてもきちんとした授業ができるかどうか心配しているところです。先程の先生方としても非常に参考になるというのは、そのとおりだと思うので、我々としては早めに研修を充実させたいと思っています。

○**広瀬知事** そこが無いと空回りしてしまうよね。

○**松田委員** ベテランの教授は新しいことをするのは苦手です。助手とか事務局の若い人に授業に入ってもらって、しばらくやっていくしかないと思います。

○**岩崎委員** タブレットを使った授業は非常に質問しやすく、かえって意見がよく出るという実績もあるんです。ですから使い方によっては非常に良い授業になります。

○**林委員** 例えば双方向のやり取りとか、多分子どもたちの方が情報端末に慣れています。どちらかという私たち大人の方が慣れてないから、子どもたちの意見も取り入れながらやっていかないと受け入れられない気がします。私たちが昔の頭で考えている授業だけだと、ちょっと厳しいかなという感じがするので、もちろん倫理の教育とかはとても大事で進めなければなりません、それ以外は最新の情報で双方向に意見交換しながら授業を作っていくといった、新しい形態もできてくるんじゃないかというふうに予想します。

○**高橋委員** 今回コロナの関係で、今まで進まなかったICTを使った授業が進み、私が一番思ったのは災害時にもこれが応用できるということです。ただ、心配しているのは、生身の人間関係が希薄になって、コミュニケーション能力が低下し、画面には話せるけど生身の人間との接触が苦手になるのではということです。そうして、元々日本が持っていた伝統や文化が薄らいでいくんじゃないかと危惧しています。ただ、今回のように学校に行けない子どもたちがどうやって授業を受けるかということに関しては、すごくプラスになったと思いま

す。

先生にも伝える能力の上手い先生と下手な先生の差があるので、それぞれの動画を参考に
して、先生たち自らがスキルアップしていけばいいとは思いますが、私はやはり1つのツ
ールと思って使うのがいいのかなと思っています。

学校に登校して団体行動の規範を覚えたり、やっぱりそういう能力も必要だと思います。

○広瀬知事 たかがツール、されどツールですね。息子とZOOMでやり取りすると、彼はもう
1つそばにパソコンを置いて、話題について、例えばスペースXなどの話になると画像で事
実確認をしながら会話したりですね。いくつもの端末でいろんなことができるんだと思っ
て。なかなかWEB教育もこれから大変ですね。

○鈴木委員 今、長男と次男が大学のリモート講義を受けているんですが、教授によって使うア
プリが違い、講義の時間にアクセスが集中してログインできないことがあって、先生がそう
いったことを理解していないと遅刻扱いにするらしく、ZOOMでクラス全員怒られたとい
ったこともあったそうです。

先生によってはYouTubeで動画を見せておいて、後でレポートを提出させるとか色々なや
り方があります。学校に行かなくても授業が受けられて単位が取ればいいと、次男は考え
ているようですが、3年間大学に通って4年目に突然リモート講義になった長男は、やっぱ
り対面で受ける講義がよかったと、言ってます。

今はアルバイトもできず、貧困に陥っている学生さんも多くて遠隔授業を受けようにも、
通信料が馬鹿にならないし、通信速度の問題もあって繋がらないということもあります。子
どもたちは主にLINEを使って通話しているんですけど、先日も通信障害があり、生命線が
絶たれたみたいな感じで大騒ぎになります。通信環境が県内全域でしっかり整わないと、各
家庭ではそこまでカバーできないと思いますし、私が住んでいる市内もLANが引けないと

いった所もあります。そういう状況で皆が平等にICT教育を受けられるかというところと難しいのかなと思うので、県をあげて環境整備を行い、安価に等しく教育を受けられるようにしていただけると、有り難いなと思います。

○**広瀬知事** おっしゃるとおりですね。通信環境はずいぶん差があるんですね。

○**松田委員** 私の講義の特色はジョークをいっぱい入れることなんですけど、配信されるとなるとジョークが入れられません。生徒からは先生らしくないとか言われてます。今は限られた時間内でまともな授業をしています。

○**広瀬知事** はかどっていいんじゃないですか。

○**松田委員** それではやっぱり苦しいですね。講義で自分の個性が出せないのは悔しいなと思います。

○**林委員** 家にいながら講義を受けるとなると今後ますます学校の存在意義とか、学校に来ることの意味とか、先程高橋委員がおっしゃったようなところが、非常に大事になってきます。それから先生たちもリモート授業と対面授業の意味を問い直していると思うんですけども、そういう状況がしばらく続く中で、一番いい授業のあり方というのを近いうちに先生たちが打ち出してくれると思いますし、また私たちもそういうのを見ていきたいと思っています。ただ、学校のあり方とか授業のあり方そのものが結構変わってきていて、今ちょうどそれが進行している状況です。松田委員がおっしゃったように、特色ある授業っていうのはこうあるべきですとか、最低限学ぶにはどうすればいいのかとか、いろんな意味の授業が出てきて、非常に面白い時期じゃないかと思います。

でもやはり学校は存在しなきゃいけないということは、間違いのないことなので、その意味を考えていく時期になると思います。

○**広瀬知事** 端末を1人1台って考えているわけですね。その時は全部をネット授業にしよう

という訳ではなく、例えば1週間に5時間ある内の1時間ぐらいをネット授業にするとか、あるいは家に帰って復習に使うとか、使い方をいろいろ多様に考えると思われませんが、その辺りの構成はできているんですか。

○工藤教育長 すごく難しいところです。この事態に至って、新しくICTをどう使っていくかということは、児童生徒の側にも、先生の側にも準備が必要です。慣れている先生方はいいんです。情報科学高校の先生とかは随分先に進んで、いろんなことをやっています。今年度の当初予算で計上していますが、STEAM教育の1つのツールとして、いろんなものを上手く使おうじゃないかということで、そのベースを情報科学高校で作っていかうとしている矢先にこういう事態になったところです。ここをスタートとしていろいろやってきた訳ですけども、当然、児童生徒をそれを受けられる環境にまず置いてあげなければならないし、一方で学校サイドもいろんなコンテンツをうまく使って、先生方の熟度を上げていくといった、課題がまだまだ沢山あるといった状況です。

そういった中でもう一つ大事なのは、先生方の働き方改革をやっっていこうという矢先にこういう変則の事態が起きたことです。そこにも配慮しながらどうやって学校全体のICTスキルを上げていくかということが大きな課題になっています。1週間の授業の中で、当然学校でネット授業みたいなことをまずやっておいて、そして何かあったときに家でもできるといった環境を当たり前にしておくということが到達点になるんだろうなと考えています。そういう意味でも今度県立学校でタブレット端末を1人1台配備する予算を実現して頂けるということになったんで、これは非常に励みになりますし、我々もしっかり使いこなせるように頑張っていきたいと思います。

○松田委員 話題が違いますが、学校を訪問すると、新しい校舎の多くが木造で、自然に近いとっておきながら、窓の造りはいかにも日本の学校らしい開閉式です。昼間は人工的な光

を使わないということが、環境教育にもいいと思うので、学校での採光、日陰の使い方、風の使い方をぜひやって頂きたいと思います。これから夏になりものすごく暑くなってくるので、窓については考えていただければと思います。

○広瀬知事 ありがとうございます。ただいまの議題のWEB教育についても、これからということであり、我々もお金を惜しまずに整備していきたいと思いますので、これを上手く活用する方法を教育委員会を中心に考えていただければと思います。

引き続きよろしく願いいたします。

本日は貴重な御意見ありがとうございました。